

事業承継した社長による主体的な経営の実現 社員の積極的な雇用育成と労働意欲向上

高松市の東隣に位置する三木町、田んぼと豊かな緑に囲まれた山里に広野牧場はある。約380頭の牛の飼育による生乳・肉用子牛の生産・出荷が主な業務内容であるが、社長の広野豊氏は高齢化や離農によって、田舎のコミュニティは崩壊へ向けて進んでいるため、農業に対する危機感を持っている。農業や酪農は、やり方次第できちんと収益を上げることができる仕事であるので、この危機感を打破するため広野豊社長は、全国各地で講演会を行い、地元大学の教授とも意見交換を行っている。

● 所在地 香川県木田郡三木町鹿庭215
● 電話/FAX 087-899-0555 / 087-899-0555
● URL <http://www.hirono-farm.com>
● 代表者 代表取締役社長 広野豊

● 設立 1979年創業
2001年設立
● 資本金 6,120万円
● 従業員数 26人



担い手確保

経営ノウハウを引き継いだ後継者による主体的な経営の実現

同社は、昭和54年に創業者の広野正則氏が12頭の子牛の育成を始め、酪農経営をスタートした。平成17年に正則氏が一気に牛60頭から200頭へ規模拡大を計画した際に、正則氏の息子で現社長の広野豊氏は、顧問税理士から同社の経営状態についての説明を受けた。それを機に、父とともに酪農に従事する覚悟を決め、平成18年に入社した。入社後1年半は休む間を惜しんで父や知人の牧場経営者から、経営ノウハウ等の情報収集を続け、それが実質的な後継者教育となり、今の主体的な経営に生かされている。



主体的な経営を実現している広野社長

経営状況の公表・説明による従業員のモチベーション向上

「農業経営も製造業と同様だ」といった社長の考えから、毎年、経営者と全社員、顧問税理士等で決算検討会を開催し、取引銀行、飼料等の販売会社、香川県農業経営課、四国経済産業局等の担当が出席し会社の経営分析を基にした詳細な報告がなされている。この取り組みにより、同社の「経営の見える化」が図られ、社員にとっては、自社の経営状況を客観的に確認することができ、モチベーション向上や定着率向上にも繋がっている。



決算検討会の開催

若者や女性の採用・インターンシップの積極的受入れ

同社は農村で農業がしたいという思いを持った人を中心に、未経験者等も雇用して、現在では26名の社員が働いている。年齢の若い従業員や女性も多く、他県から1ターンで来ている人も見られる。また、同社では人材育成にも力を入れており、人事評価システムや使用する重機などの資格取得制度も整えている。更に、独立を希望する社員には経営の勉強が出来るように配慮している。最近では農業を職業の選択肢の1つと考える高校生、大学生、社会人等を対象に、1週間～2か月間のインターンシップにて年間40名ほど受入れている。



積極的に受入れた若者や女性等の従業員

ものづくり